



# 日々輝通信

No.9

令和4年1月7日発行

日々輝学園高等学校東京校 HIBIKI GAKUEN HIGH SCHOOL

## 苟日新、日日新、又日新



北林先生書

令和4年、寅年の新春を迎えました。関東地方は、元旦から天候にも恵まれ、各地の神社は多くの初詣の人で賑わっていました。冬休み中は日本の伝統文化に触れる機会を持ってましたか。早いもので新年も7日経ち、今日から第3学期が始まりました。改めまして、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

年が明け、未知の新型コロナウイルスのオミクロン株の脅威は、急速にすぐそこまで迫っているように思いますが、生徒の皆さんはこれまでと同じように感染対策を行うようお願いいたします。気持ちも新たに「友情の輪」「星雲の志」を胸に新しい一歩を踏み出していきましょう。

さて、3年生にとってはよいよ卒業、進学、就職と高校生活のフィナーレとなるビックイヤーとなりました。そして、もう一つ大きなことがやってきます。それは、およそ140年ぶりの改正民法の施行により、4月から成人となる年齢が20歳から18歳に引き下げられ、2年早く大人への仲間入りとなります。具体的な改正点は、すでに報道されていますが、18歳から自らの意志でできることが増えるのです。これから社会の人たちは、高校3年生で成人する皆さんをどのような目で見ていくのか、皆さんはどのような

目で見られていくのかを意識できる人となってほしいです。

正月には箱根駅伝を見た人もいたと思います。私は、昨年の予選会の中から注目していた大学がありました。その大学は今回初出場の飯能市にある駿河台大学です。そして出場した選手の中に中学校体育教師を休職して30歳で駿河台大に編入学した今井隆生さんがいたからです。彼は10区間の第4区を完走し、彼が中学校教師時代の教え子だった5区の3年生永井竜二さんに襷をつなぐことができました。夢が叶った瞬間でした。嬉しかったです。

毎日新聞の『天声人語』では、「箱根路を走る若者にこころが動かされるのは、これまでの精進が垣間見えるからだろう」「さあ今年は、今年こそは、などと考える時期に箱根駅伝があることの妙を思う。その努力の何十分の一かでもあやかりたい」とありました。

また、同じ日の『折々の言葉』には「自分を磨く」という言葉が紹介されていました。「磨くということは、何かと何かを擦り合わせること。擦り合わせないと磨かれない。物は他の物と何度もこすれ合うことでぴかぴかしてくる。人も同じ。自分とは異質な人、理解しにくい人、話がうまく通じない人との摩擦を繰り返し体験する中で人として艶やかになっていくのだ」と述べられていました。

どのような立場の人であろうと、毎日の生活や仕事というのは同じことの繰り返しが多いのです。うかうかやっていると、ついにはマンネリになってしまいます。マンネリになったのでは、自分を磨くこともなくなってしまいます。やはり常に意欲を奮い起こし、「日に新たに」の決意で取り組むことが必要です。そうすれば、勉強や部活動、仕事も楽しく、スムーズに進めることができ、自分の進歩向上も繋がっていく一年になるのだと思います。箱根駅伝の解説者がよく「一秒を削りだす」という言葉を使っています。わたしたちの日常生活では、一秒どころか、一日一日を大切にしよう意識することさえ忘れてしまうことがありませんか。

さあ、新しい年となり皆さんがこの一年をどのような意識を持って、一日一日を大切に生きていくのかを期待をしています。一年で人は大きく変わって成長していくと信じています。

結びに、新年早々私にまで年賀状を送ってくれた生徒には御礼申し上げます。東京校の生徒、ご家族の皆様にとって令和4年が健康で幸多い年となるよう心から祈念し、3学期始業式の言葉といたします。 学校長

【題字について】

「湯之盤銘曰、苟日新、日日新、又日新。湯（とう）の盤（ばん）の銘（めい）に曰く、苟（まこと）に日に新たに、日々に新たに、又日に新たなり」

【解説】

殷王朝を創始したの湯王という名君は、洗面器の器（盤）に「苟日新、日日新、又日新」の9文字を刻み付け、毎日洗顔するたびにそれを見ながら、政治に取り組む覚悟を新たにしたのだと言われています。

